



万緑の高田城址公園



古壺新酒

第33号

令和2年6月30日

日本伝統俳句協会
北信越支部長

瀬在光本

題字 安原 葉
ホトトギス同人会長

「不易流行」と「古壺新酒」

日本伝統俳句協会北信越支部長 瀬在光本

木々の緑がまぶしく光る素晴らしい候、会員の皆様にはご壮健の事と存じます。

しかし乍ら、今年になって世界中に蔓延している新型コロナウイルス禍により、日頃行われていた俳句会や吟行会などができずに、自然界におきるまさかの脅威になすすべもなく、日々を送られている方も少ないのではないかと推察いたします。

このウイルス禍は地球上全ての国が感染拡大を抑えながらどう経済活動を正常化させるかとの非常な難問を突き付けられております。

このような時期に俳句をやる私たちにとってはどのような姿勢で俳句に向き合うべきかと思案している方もおられるかと思えます。

俳諧のあるべき理念として芭蕉は「不易流行」つまり「永遠に変化しない本質的なもの（不易）を失くさない中にも、新しく変化していくもの（流行）も取り入れていくべき」ことを称えました。言い換えると俳諧は変えてはならぬものと、時代に応じて変えていかなければならぬものがあると説いた。この時大事なことは、変えてよいものと変えてはならないものの見極めが大事であることは言うまでもありません。

又虚子は前回からこの会報の題にさせて戴きました俳句の理念の一つに「古壺新酒」と称えました。

これは「俳句は伝統の文芸であるから五・七・五、季題を詠みこむなどの基本的制限があるがこの形式の古い壺に酒を盛るような新しいあり方も取り込んでいくことも必要である」と唱えました。

汀子先生の提唱した伝統俳句を標榜する我々会員は、このような「ウイズ・コロナ」という大変な時代ではありますが、伝統俳句協会の理念に立ち返ってここを起点に新境地を切り開いて俳句作りを楽しんで戴いたらいかでしょうか。

このウイルス禍が治まり、句会や吟行会が心置きなく出来る日が一日も早く来ることを祈念いたしましてご挨拶とさせていただきます。

俳句会



第七十四回虚子記念姨捨観月句会

令和元年九月十七日千曲市姨捨長楽寺で開催されました。

小諸に疎開中だった虚子が、月の名所として知られる姨捨の月を見るため、地元俳人に誘われ、年尾、立子を伴い、終戦の年、仲秋の観月句会を催しました。

それから七十四年の歳月が経ちましたが、その句会から毎年欠かすことなく信濃の俳人たちがこの歴史ある観月句会を守り続けています。

今年はお天気に恵まれ、棚田が金色に輝き虫の音色も、秋草も、水音も、沢山の季節の中の素晴らしい吟行日和でした。

当日の入選句 鈴木しどみ選

- | | | |
|-----------------|----|----|
| 姥岩の高さに秋の風を聴く | 西本 | ゆき |
| 終電の赤き尾頭や月高し | 瀬在 | 光本 |
| 点心をもてなす寺の手打蕎麦 | 牧野 | 菊生 |
| 遠目には美人の案山子棚田守り | 勝山 | 學 |
| 虚子泊ちし月見の宿や有りしまま | 山口 | 芳輝 |
| 姥岩や千年の月語りおり | 宮澤 | 正 |
| 稲架用意棚田の斜面手をついて | 岡山 | 幸子 |
| 名月や雲かからずも師が居らず | 加藤 | 公男 |
| 名月の寺には蜻蛉そばを打つ | 佐藤 | 恵一 |
| 小さき花虫の音辿り長楽寺 | 金箱 | 一世 |

第二十四回(令和二年) 信濃虚子忌

- | | |
|----------------|-------|
| 踏みしだく道筋つきし月の里 | 小林つくし |
| 虚子慕ふ七十余年月の句座 | 井出 節子 |
| 枝豆もふつくら実り棚田かな | 清水 順子 |
| 鳶三羽棚田悠々秋高し | 若林みき子 |
| 露けしや喪の心持て句座におり | 吉田 洋子 |
| 刈り伏せの草に散りたる葛の花 | 中村 弘 |
| 野菊咲く天へ通ずる棚田道 | 笠井 厚子 |
| しだれ萩光集めて月見堂 | 中村恵美子 |
| 境内を走る水音秋気満つ | 尾和有美子 |
| リヤカーも唐箕もむかし稲雀 | 杵淵 晴子 |
| 秋野菜たんと段々畑かな | 丸山 ま美 |
| 稲刈つて棚田を天に広げけり | 青木く美子 |

- 今年の信濃虚子忌俳句大会は、新型コロナウイルス禍で中止となった。残念に思い、句会はできなくとも作品により小諸時代の虚子を偲ぶこととした。今年には図らずも大久保白村先生のご参加をいただき、他結社の選者も加え、八人の選者によるステイホームの選が行われた。参加者は五十人。大久保白村選
- | | |
|--------------------|-------|
| 特選 母山羊と離され子山羊牧の春 | 清水 節子 |
| 秀逸 葱坊主あつしにパーを出されけり | 中澤 房子 |
| 椿寿忌や小諸百句を繕きて | 山口 二男 |
| 吉澤桜雨子選 | |
| 特選 虚子の忌や花鳥諷詠心髓に | 宮澤 正 |
| 秀逸 花巡り小諸百句を吟じつつ | 山口 芳輝 |
| 救急車に道を譲りて花の春 | 尾和有美子 |

鈴木しどみ選

- | | |
|---------------------|-------|
| 特選 虚子の忌の供花に広がる山野かな | 青木く美子 |
| 秀逸 立ち止まり信濃虚子忌を起点とす | 井出 節子 |
| 予定みな消えし暦や桜散る | 岡山 幸子 |
| 西本ゆき選 | |
| 特選 椿剪り心に虚子を祀るかな | 鈴木しどみ |
| 秀逸 被災地を生き延びて咲く朝桜 | 牧野 菊生 |
| にじみ出てやがて流るる雪解水 | 大久保白村 |
| 川崎繁子選 | |
| 特選 その人をもっと知りたき虚子忌かな | 諸事 豊作 |
| 秀逸 丁寧にすすぐ両の手春の水 | 小林つくし |
| 母山羊と離され子山羊牧の春 | 清水 節子 |
| 小池保子選 | |
| 特選 被災地を生きぬいて咲く朝桜 | 牧野 菊生 |
| 秀逸 予定みな消えし暦や桜散る | 岡山 幸子 |
| 逞しや泥の名残の桃の花 | 清水 順子 |
| 青木く美子選 | |
| 特選 影蒼く遊ぶ黄蝶や虚子の墓 | 前島きんや |
| 秀逸 邂逅の握手は無言白椿 | 田中 延子 |
| 極めれば白裏山の山桜 | 中澤 房子 |
| 瀬在光本選 | |
| 特選 大自然おそれつ愛でむさくらさくら | 小林伊代子 |
| 秀逸 虚子の忌の供花に広がる山野かな | 青木く美子 |
| 泰然と春の野はあり人の世に | 鈴木しどみ |
| 他人選句 | |
| 水の神日の神授かり椿哉 | 瀬在 光本 |
| マスク派手コロナウイルス寄せつけず | 川崎 繁子 |
| 自粛てふ家居テレビの春爛漫 | 永井 幸子 |
| 被災地に慈悲の色もて春の月 | 西本 ゆき |



石川県部会研修会 淡墨桜吟行句会

向き合へば微笑み返す山桜
これやこのすみれたんぽぽ犬ふぐり
薬の漲る元氣触れて見る
令月を待ち侘ぶ桜静かなり
鶯に声かけられし朝の径
春菜和えききと芥子を搔きにけり
たんぽぽの黄を数へて散歩道
俳額の文字薄れをり花ぐもり
連山の緑乗り継ぐバスの旅
佇めばジョウビタキ来て遊び行く
花に雪はるか昔の我のごと
ひとしきり現世をはなれ蛭狩
富士川の白き川砂柳の芽
畑打ちて何処ともなく香り来る
コロナ禍や歯車狂ふ春風
椿寿忌や椿大福思ひ出し
来よ来よと神社の枝垂桜かな
椿寿忌と花祭とはこれいかに
音のなきひとひら空はさくら色
遠景の新樹の鼓動風とらへ
由緒ある小路の多し初燕
山峡の静もる池に緑映え
山国の余寒も過ぎし虚子忌かな
白雲も静かに行けり花の村
供花買って亡き人の跡彼岸道
曆から予定が消えた春がゆく
籠いっぱい青菜抱えた友の顔

滝澤 さくら
吉澤 桜雨子
小池 保子
藤澤 方恵
勝山 學
松本 れい子
金箱 一世
小泉 いく子
加藤 公男
廣瀬 はじめ
中澤 亥三
戸谷 修一
吉澤 萌
湊 ひろ子
宮澤 澄明
佐藤 ゆきな
丸山 ま美
吉澤 邦夫
大井 悦子
中山 弘美
宮下 茂
倉石 智美
中村 弘
中村 晴子
大原 彰夫
脇若 恵子
若林 さみ子

鈴木しどみ

平成三十一年四月十日、バス一台を仕立て四十二名が参加して、岐阜県の樹齢千五百年以上と言われる淡墨桜を吟行する句会を開催した。桜はほぼ満開であったが、季節外れの雪に見舞われ、春と雪の季重なりを如何に詠むか、貴重な体験となった。

参加者の一人一句は次のとおり。

淡墨の花や添木の守る樹齢
雨雫さへ花の色花心
はるか来て雪の淡墨桜とは
花守の春雪折りし枝かつぐ
花心乗せ満席のバスとなる
あえかなる花と溶け合ふ名残雪
たかぶれる人を鎮めて花の雪
平成の終の花見を根尾谷に
花と雪色の境を見せぬまま
花人を震へ上がらす雪の果
根尾谷の花を守りて観世音
白銀を纏うて神秘的なる桜
花守の春雪払ふ高梯子
二度三度身支度変へし花の旅
名残雪踏み花弁を踏む山路
雨をつきと見かう見つつ花の旅
桜守思はぬ雪を払う破目
吟行の膳に小振りの花見団子
花冷をほぐすお喋りバスの旅

谷村 栄子
西田 梅女
中村 曜子
山城 悦子
松本 寿憲
出島 達子
北 美紀子
岩本 松江
中川 外代子
北 重子
折橋 紀与美
村上 秀吾
篠島 安子
小島 藍女
和沢 靖子
伊東 弥太郎
矢木 桂子
西田 さい雪
水橋 眞智子



根尾谷やトンネル抜けて花に雪
老幹に漲る力花大樹
淡墨の花に再会得たる俵
そこはかとしづる音立つ花の雪
淡墨の花の心を乱す雪
淡雪を乗せて枝垂るる桜かな
根尾谷の雪籠めとなる花見かな
淡墨の花に風情の雪の果
雨意深しこの桜木の幾星霜
雨ながら花存分の旅路かな
百本の支柱を伝ふ春の雨
春暁に心うきうきバス旅行
落花して薄墨色へと諾へり
春暁の鳥に目覚めて旅に出る
根尾の地に命をつなぐ大桜
春寒し根尾の谷間に寄り集ふ
雪山を背に淡墨桜咲く
幾万の視線に応ふ花の黙
春雨の霽に消えゆく里の景
思はざる雪に重ねし花見事
爛漫を発ち花淡墨に佇みぬ
饒舌に時には黙す桜人
折れし枝背負ひて運ぶ桜守
(以上、伊東弥太郎記)

野崎 進一
西 登美枝
高堂 智恵子
金子 慶一
小幡 道子
西野 久二夫
堀口 紀子
向 佐ち子
中村 珠栄
野村 玲子
駒形 隼男
上田 恭子
瀬古 祥子
田島 ひろ子
辻 文江
野崎 美和子
藤川 澄恵
堀口 道子
牧野 妙子
宮本 三重子
宮下 末子
村本 寿美枝
守作 益美

日本伝統俳句協会福井県部会

令和元年五月十八日、福井県部会総会及び小句会が開催された。総会は十三名(委任を含め)をもって開催され、各議案原案通り承認され次の諸氏が役員に任命された。(於 柏翠記念館)

会長 山岸世詩明
副会長 奥 清女
事務局長・会計兼務 田野井かづを
監査役 未政千代子

小句会は鯖江市の近郊、近松門左衛門有縁の地を吟行。結果は次の通りであった。

揚羽舞ふ近松像に師の句碑に 山崎 越堂
七曲り武家屋敷内茄子植わる 山岸世詩明
薫風に鯖江の名所巡る旅 奥 清女
薫風や城下の名残り七曲り 岸本 幸子
春慶寺風の音聞く竹の秋 中山 昭子
臥竜松塀の上這ふ薫風裡 多田みす枝
臥竜松塀に這せて松の蕊 未政千代子
直角に吹くか薫風七曲り 田野井かづを

第十六回つるが芭蕉紀行俳句大会

敦賀俳句作家協会が主催し、日本伝統俳句協会北信越支部が協賛する大会が令和元年十月二十日(日)敦賀市きらめきみなと館小ホールにて開催された。「月」をテーマとする事前投句及び氣比神宮西福寺を吟行地とする吟行句の選句・選評・表彰。俳人協会評議員「雉」主催の田島和

生先生に依る「風狂の芭蕉」と題する講演会が行われた。

福井県部会秋季親睦俳句大会開催

令和元年度開催の県部会秋季親睦俳句大会は、令和元年十月五日(土)九名の参加により、越前町立福井総合植物園プラントピアに於いて行われ、互選結果は次の通りであった。

秋草の中に本道らしきもの 村上 雪
鱗雲言葉にならぬ別れかな 山岸世詩明
糸萩や風に憩ひてをりし時 四本木ただし
街騒を遠くにはなれ紅葉狩 未政千代子
人生の秒読論す秋の風 岸本 幸子
風よそぎ秋蝶の舞ふ散歩道 多田みす枝
草にある朝のしめりや秋の蝶 中山 昭子
まだ少し彩を残れるこぼれ萩 伊藤英美子
行く秋の見えざる風の音を聞く 田野井かづを

追悼句会

恒例の追悼句会が次の通り行われた。

4月1日 愛子忌 24名参加 三國町月窓寺
7月26日 哥川忌 36名参加 三國町永正寺
9月1日 柏翠忌 40名参加 三國町月窓寺
10月7日 左内忌 14名参加 福井市安養寺
11月23日 近松忌 予定 鯖江市立持公民館



富山県部会 活動状況

「虚子」に学ぶ伝統のホトトギス俳句会として吟行俳句会を実施

- 日時 6月23日(日) 13時より
- 場所 県中央植物園内「学習室」〈夏椿〉
- 参加者 17名(内新規参加者1名)
- 日時 10月27日(日) 13時より
- 場所 県中央植物園内「第二会議室」〈鬼蓮〉
- 参加者 16名(内新規参加者1名)

「虚子」に学ぶ伝統のホトトギス俳句会として勉強俳句会を実施

- 日時 1月26日(日) 13時より新規会員登録
- 場所 WEB会報案内葉書配布で新規募集
- 参加者 12名(内新規参加者2名)
- 内容 勉強俳句会および初心者俳句講座
- (WEB会報の入門俳句講座の紹介)

新潟県部会報告

- 3月21日(木) NHK俳句王国収録スタッフ及び、投句指導(伝統俳句協会新潟県部会として新潟県文化振興課より依頼)
- 10月26日(土) 第34回国民文化祭・にいがた2019・第19回全国障害者芸術・文化祭・にいがた2019
- 「詩(ことば)フェスティバル」(花火と良寛の地で)会場 柏崎市文化会館アルフォーレ 大ホール
- 内容 兼題句募集要項立案と大会スタッフ参加
- (日本伝統俳句協会新潟県部会として、新潟県文化振興課より依頼)

日本伝統俳句協会北信越支部 令和元年思い出の一句

新潟

見えさうで見えぬ佐渡指し里の秋 小川 則子
 掃かず置くことも持て成し寺紅葉 大矢あきこ
 冬めくや母に一枚羽織る物 関口 智実
 熊蜂のホバリングの真下かな 藤原 哲
 咲き初めし萩を揺らせしほどの風 佐藤 文子
 夏めける風の軽さや峡の里 富井千鶴子
 小夜更けて雪降る音の静かなり 榎本清津子
 ぼうたんの揺るる華やぎ寺静か 小川のぶ子
 夕月の疾うに沈みし山の黙 安原 葉
 踏みなれし磴の春秋落葉舞ふ 安井 里子
 兵の碑に似て建つ春の首都のビル 青木福太郎
 菖蒲湯へ一輛電車乗り継ぎて 笠原佐千子
 船底を干して蓴菜池の昼 桑原 幸子
 良寛のいろは三文字の軸涼し 宮澤久美子
 素晴らしき起承転結大花火 内藤 孝
 山寺の緑の風をほしいまま 桑原たかよし
 廃線を埋めつくしたる姫女苑 板垣 柳子
 八月や令和に戦史語りつぐ 富永 麻子
 低空を満身で翔ぶ燕の子 藤井 敏子



富山

また詠めずまた居眠りや置炬燵 井上 大輔
 行列に和尚も入り花祭 有川 寛
 コスモスを手にコスモスの風の中 平野 孝純
 足踏みも筋トレのうち冬籠 岩城 未知
 山毛櫨涼し杖休ませて八合目 高城 玲子
 青芝や仕合せさうな人ばかり 田上眞知子
 御代三代歩み米寿の屠蘇を酌む 寺島 皎
 終活や一進一退年の暮れ 齊藤 白水
 くつきりと山並み浮かぶ冬夕焼 坂本 雪峰
 銀色の空ほころびて冬日射 北川 秀子
 ほろ酔ふて素顔の覗く浴衣がけ 稲田 節子
 柿好きを覚えていと挽いでくれ 坂井一二三
 睡蓮やティーカップの如浮かぶ 畑中 節子
 冷房の要らぬと山の風に住む 宇波可津志
 山容を消し大いなる雪解露 荒木 陽子
 爽やかに年をとらうと合言葉 荒木かづを
 風立ちて枯れゆくもの、にほひかな 片桐 久恵

石川

人間も朱鷺も地球の露の粒 大橋美代子
 実り田や災害なきを祈るのみ 谷口由美子
 憧れの校章胸に花の門 金子 慶一
 白山へ銀嶺連ね初景色 宮下 末子
 幾人の師との思ひ出炉を開く 仲谷美枝子
 こちよき風と歩みて水引草 北七喜美子
 寒明の静かに満ちてゐる日差 中村 曜子
 老幹のねぢれ孤高の梅白し 鈴木 恵子
 坑道を抜け万緑に抱かれたる 中川外代子

夫と発つ今日は派出目の夏帽子 松下 薫
 賑はしく集ふ故里盆の月 八百 恵子
 一期一会雪の淡墨桜かな 野村 玲子
 たれこめし雲の低さを梅雨の蝶 瀬古 祥子
 万緑を抜きんで白き城櫓 荒谷みえ子
 青芝の色を仕上げて雨上る 宮本三重子
 蒼天を突いて揺がぬ大冬木 北川まつ子
 蓮華供え僧の読経や姉忌日 澤野 和子
 絞め合うて絆深まる祭帯 石名坂房枝
 虚子偲び亡き師を偲び昼蛙 永井佐和子
 観世音祀り真清水湧き溢れ 高堂智恵子
 大勢の笑顔と御慶句碑の丘 篠島 安子
 やうやくに葉を閉じほのとねむの花 平田 ゑみ
 日の匂洗ひ流して夕立過ぐ 折橋紀与美
 全身で跳ねている兎に天花粉 西谷 笛秋
 大山車の令和言祝ぐ木遣歌 坂下 成紘
 柔らかく葉先撫でゆく青田風 牧野 妙子
 加賀雛一分の誤差もなき調度 堀口 道子
 祝辞述べ日の芍薬の開く中 松本 松魚
 みちのくの先づ秋めきし雲に会ふ 辰巳 葉流
 大降りのおとの青空立葵 辻 文江
 まず一献薄茶進上利休の忌 水上 栄
 小さき影遊ばせてゐる春障子 岸本佐紀子
 虫の音やいつもの朝を研ぎ澄まし 中田 康子
 懐かしや蚊帳吊草で遊びしを 宮田也寸子
 千枚が一枚となる青田風 伊東弥太郎
 土砂降りに持つていかれし虫の声 東 小夜子
 これほどの花に一人で来てしまひ 西やすのり
 あかつきの梅雨満月を押しけり 丸田 玉栄



忘れまじ雪の別れの根尾の旅
 草若葉かがめば風のかぐはしき
 花心乗せ満席のバスとなる
 挽ぎたての茄子の紫水弾く
 えごの花散るときも又ひたむきに
 さよならも言へず夫逝き昼の虫
 令和の世へ守り継ぎゆかん能登虚子忌
 笑み涼しいつもの道の道祖神
 一病も和らぐ思ひ春立てり
 好晴の南スペイン冬ぬくし
 南に果てし兄恋ふ星月夜
 眺望の久弥踏破の山笑ふ
 新たななる八十路の氣迫初手水
 秋潮へ底引船の競ひ発つ
 果て見えぬ大地耀ふ麦の秋
 母がりへ近き紫雲英の畦伝ひ
 風薫る湖畔の喫茶開け放つ
 新たななる元号花も爛漫に
 細りても風と遊べる枯芒
 春眠や犬の催促にも覚めず
 舞ひ降りる木の葉追ひかけはしゃぐ子等
 読み終えてホ誌置く窓辺月の秋
 鴨引いて艇庫の扉開いてをり
 滴りに賜る山の英気かな
 鶉に生きて守り継ぐ家系露涼し
 五月晴人出の続く美術展
 霧を来て木地工房は木の匂ひ
 村守りし火の跡や重咲く
 夜のとばり押し寄せてくる大花野

水橋眞智子
 西 登美枝
 松本 寿憲
 向 佐ち子
 中村 珠栄
 三島由紀子
 松本 慶子
 村中 久恵
 矢木 桂子
 岩本 松江
 東 澄子
 村上 秀吾
 松本 洋美
 駒形 隼男
 和沢 靖子
 長徳谷とし
 出島 達子
 堀口 紀子
 谷村 栄子
 広島 明臣
 大岸 青夏
 宮前 速男
 北 重子
 西野久仁夫
 赤島磨智子
 岡村 俊子
 松室美千代
 北村 翠波
 橋本 正乃

耕の手馴れし手つき老いて尚
 仏縁に句縁に学ぶ寺の秋
 村本寿美枝
 橋本紀美子

福井
 句の友の計報でありし初電話
 錦秋の五湖は五つの顔もてる
 初生りの葡萄ずしりと掌に
 ふらここや母の掌いつも背にありし
 色鳥来永久に思惟の御佛に
 ウインドに赤いコートの売れ残る
 一と結びしたる厨の夏のれん
 豊かなる声量にある涼しさよ
 年縞を誇る太古の湖小春
 文字盤にかかる春塵花時計
 氣比の杜風禍を癒す秋日和
 氣比宮の蟲にあづける翁像
 笛太鼓忘れし五人囃子かな
 村本寿美枝
 山口やすか
 桂本ひろ緒
 多田みす枝
 山岸世詩明
 村上 雪
 奥 清女
 村上 雪
 堀なでしこ
 山口 霞牛
 木幡 嘉子
 岸本 幸子
 為永香月枝
 田野井かづを

長野
 朝採りの野菜も加へ夏料理
 夏料理窓いっぱい日本海
 岩清水ひと口ずつに風の音
 紅焰の仁王が受けし大西日
 筆先が思ふに走りみどりの夜
 寄り添って行かうと思ふ鯛雲
 夏祝儀孫のしつらう遺影席
 出水禍に堪ゆ母に町父の村
 雪掻きや町内ニュース事欠かず
 野遊の子等のふくらむ好奇心
 宮澤 正
 小池 保子
 佐藤 恵一
 勝山 學
 瀬在 光本
 鈴木しどみ
 西澤ひろみ
 山口 芳輝
 永井 幸子
 中山 弘美

雲海を抜けて令和の日の出かな
 風鈴や戸障子多き家に住み
 花薺令和の孫の産まるる日
 一卓も二卓も女生ビール
 すり切れし筆箱惜しみ卒業生
 星月夜三川四山色ひとつ
 和らかや今日の心と春の山
 浅間山火の息吐くや星月夜
 ふんばつて高きに達磨どんど焼
 満ちし月欠けし月見て姨捨に
 ネジ一本ゆるみし笑顔春休み
 川崎 繁子
 田中 延子
 丸山 ま美
 縣 展子
 清水 節子
 牧野 菊生
 金箱 一世
 岡山 幸子
 井出 節子
 西本 ゆき
 小林つくし

東京
 行きのびてまだ生きむとぞカンナ咲く
 艶めきし杏子を挽ぎてデザートに
 野口 昭子
 下野美智子

群馬
 霧襖開けて待ちぬし句会場
 吉田 洋子

募集 私の一句

同封の郵便はがきに記載の上、九月末までに次へお送りください。

○宛先 〒930-0241
 富山県中新川郡立山町道源寺
 8312-1
 荒木かづを 宛

日本伝統俳句協会北信越支部決算及び予算

(自 平成31年4月1日～至 令和2年3月31日)

1. 一般会計

(単位：円)

平成31年度決算			令和2年度予算	
収入の部			収入の部	
項目	決算額	備考	予算額	備考
前年度繰越金	490,770		528,749	
利息	3		3	
運営協力金	671,000	2000円×335.5口	600,000	
合計	1,161,773		1,128,752	
支出の部			支出の部	
協力金振込手数料	30,008	ゆうちょ銀行払込	30,000	ゆうちょ銀行払込
会報発行費	173,940	会報32号発行	150,000	会報発行
事業報告会及び 研修会費	150,000	各県部会へ補助金 ^(注)	150,000	各県部会へ補助金
事業協力費	18,031	姨捨、山中、敦賀	20,000	姨捨、山中、敦賀等
会議費	157,956	役員会旅費等	150,000	役員会等
情報関連費	-	-	50,000	WEB会報費用
事務費	68,089	郵送料ほか	80,000	郵送料ほか
予備費	35,000	入会補助金7名	50,000	入会補助金
小計	633,024		680,000	
次年度繰越	528,749		448,752	
合計	1,161,773		1,128,752	

(注) 各県部会への内訳は、新潟3万円、長野3万円、富山2万円、石川5万円及び福井2万円の計15万円である。

2. 記念事業積立金

一般会計とは別に全国俳句大会準備金等として 1,500,097円積立

お知らせ

大会ご案内

●北信越ホトトギス俳句大会

※大会は中止
兼題句募集

締切 令和2年7月10日(金)
投句先 西本ゆき方大会事務局
電話 026-296-17143

●虚子記念姨捨観月句会

日時 令和2年10月14日(水)
場所 千曲市姨捨 長楽寺
照会先 鈴木しづみ
電話 026-232-5089

●つるが芭蕉紀行全国俳句大会

※大会は中止
兼題句募集
締切 令和2年8月31日(月)
照会先 中者正機
電話 0770-2311482

富山県部会 荒木部長より
北信越支部WEB会報を作成
アドレス <https://575web.com/>
ご意見・ご感想など入れていただければ
と思います。

日本伝統俳句協会

北信越支部への協力金

(二〇一九年度) 「二〇二千元」

ご芳名および口数

五十音順・敬称略

(10口) 安原 葉

(5・5口) 山岸世詩明

(5口) 安浄寺勉強会・板垣柳子・勝山 學・

駒形隼男・鈴木しどみ・瀬在光本・

高堂智恵子・西田さい雪・藤浦昭代・

村中久恵・安田畝風

(4・5口) 森田 昇

(3口) 大久保雪子・田上眞知子・中村曜子

(2・5口) 伊東弥太郎・今井芳子・

岩城未知・大橋美代子・岡村俊子・

奥 清女・桂本ひろ緒・河越敏子・

北 重子・桑原たかよし・小池保子・

田野井かづを・長徳谷とし・辻美智子・

富井千鶴子・仲谷美枝子・西田梅女・

野村玲子・広島明臣・藤原 哲・

堀口紀子・牧野菊生・松本慶子・

松本松魚・矢木桂子・和沢靖子

(2口) 荒谷みえ子・岩本松江・大岸青夏・

小川則子・笠原佐千子・川口俊子・

川崎繁子・北川越草・末政千代子・

関口あや子・関口智実・高城玲子・

高田俊彦・辰巳葉流・富永麻子・

中川外代子・中村珠栄・西本ゆき・

藤井敏子・牧野妙子・宮澤 正

(1・5口) 青木福太郎・赤島磨智子・

有川 寛・石名坂房枝・井出節子・

榎本清津子・大矢あき子・小川のぶ子・

折橋紀与美・金子慶一・北川まつ子・

北七喜美子・桑原幸子・坂下成紘・

佐藤文子(長岡)・佐藤美春・清水順子・

下野美智子・鈴木恵子・谷村栄子・

辻美智子・西登美枝・東小夜子・

東 澄子・藤田暁夫・松下 薫・

松平芳子・水上 栄・向佐ち子・

村上 雪・安井里子・山口霞牛・横町陽子

(1口) 縣 展子・浅井和子・荒木かづを・

荒木陽子・飯貝恵秀・稲田節子・

井上大輔・岩島照子・上田千鶴子・

宇波可津志・岡山幸子・小幡道子・

梶井より子・片桐久恵・加藤公男・

金箱一世・岸本佐紀子・岸本幸子・

北川秀子・北村翠波・窪田富美子・

熊野雅子・小泉いく子・木幡嘉子・

小林貞子・小林つくし・坂井一二三・

坂本雪峰・佐藤文子(小諸)・佐野皐月・

澤野和子・篠島安子・清水節子・

清水 哲・瀬古祥子・田代草猫・

多田みす枝・田中延子・田辺国和・

谷口由美子・谷原桂子・為永香月枝・

辻 文江・出島達子・寺島 皎・

内藤 孝・永井幸子・永井佐和子・

中田康子・中山昭子・中山弘美・

西川嘉子・西澤直子・西野久仁夫・

西やすのり・野口昭子・橋詰シズエ・

橋本紀美子・橋本正乃・早瀬貞子・

樋口美絵子・平田多み・平野孝純・

藤田百生・堀口道子・堀なでしこ・

本田輝代・本間百果・松田 勲・

松室美千代・松本寿憲・松本洋美・

松本玲子・丸田玉栄・丸田ま美・

三島由紀子・水橋眞智子・宮澤久美子・

宮下末子・宮前速男・宮本博子・

村上秀吾・村中聖火・村本寿美枝・

森田康夫・八百恵子・八島三枝子・

山口やすか・山口芳輝・吉澤 萌・

吉田佳代・吉田みはる・吉田洋子

お願い

北信越支部への協力金

昨年も多くの方からご協力をいただき御礼申し上げます。北信越支部の活動資金は皆様の協力金という名の会費に依っています。今年度も同封の趣旨をご理解いただき、絶大なご協力をよろしくお願い申し上げます。

○協力金 一口 二千元 何口でも結構です

○期 日 9月末日

○振込は 振込用紙でお願いいたします

振込番号 006501613870

○加入者名 日本伝統俳句協会北信越支部